

# MURORAN JAZZ CRUISE 2004



港まち室蘭  
130年の歴史を持つ港は世界へ向けて  
人や物、文化を発信してきた  
その港で今年も  
ジャズの鼓動を発信するイベントが開催される  
室蘭ジャズクルーズ  
中央ふ頭の倉庫をステージとしたイベントには  
市内外から2,000人を超える観客の  
入りこみが期待される  
4回目を迎える今年は、8月21日に開催  
室蘭ジャズクルーズの  
誕生から成長の足跡を紹介する

## まちに響く リズム 鼓動



港とジャズを結んだ人たち



年に1度だけライブハウスになる倉庫。観客の声援は、真夏の港をジャズ一色にする

# 室蘭ジャズクルーズ2004 8/21(土)

11時30分～20時30分(開場11時) 室蘭港中央ふ頭倉庫

向井 滋春



エディ・ゴメス



寺井 尚子

**チケット料金**  
 一般 4,000円(当日4,500円)  
 高校生以下 1,000円(当日1,500円)

**チケット販売場所**  
 エルムため楽器室蘭支店、観光協会、  
 白鳥大橋記念館みたら、室蘭音楽文  
 化協会、やきとり一平チェーン各店、  
 ぎんやレコード、ぷらっと・てつい  
 ち、ポストフル室蘭、ローソンチケ  
 ットほか

**11時30分** オープニング(アマチュアバンド)  
 鶴ヶ崎中学校吹奏楽部  
 ドリームファクトリージャズオーケストラ(札幌市)  
 室蘭工業大学ジャズ研究会  
 栗井和香子OrganTrio+(札幌市)  
 南山トリオwith山本真理子(vo)(札幌市)  
**ゲスト出演** Club SJF

**15時30分** パート1 向井滋春クインテット  
 パート2 エディ・ゴメストリオ  
 パート3 寺井尚子クインテット

【詳細】同実行委員会(室蘭音楽文化協会内) ☎9922、ホームページアドレス<http://www.jazzcruise.net/>

## だれもが港まちの ジャズを待っていた

かつて、室蘭にはジャズがBGMのように流れていた。娯楽が少ない時代にあつて、音楽に触れることはゆとりの一時だったのだろう。当時の若者にとってジャズは、かっこよさの象徴であり、大人への憧れだった。「昭和40年代の室蘭は、ジャズを聴いたり演奏している店も多く、街中でジャズがあふれていた」とジャズクルーズ実行委員会の石塚会長は振り返る。市内にジャズ喫茶もあり、老若男女が思い思いのスタイルで、ジャズに親しんでいた。

時代は昭和から平成へと変わったが、室蘭のジャズはかつての盛り上がりを見せることはなかった。

2001年(平成13年)のある日。石塚会長は、21世紀の幕が開いた節目に、再度、輝きを取り戻したいという思いを仲間たちに打ち明けた。「(イベントを)やってみないか」。石塚会長の熱い思いに、メンバーは自然と集まった。彼らも、待ち望んでいたのだ。色あせないジャズへの思いが、イベント実現に向けたエネルギー源となつて、再び動き出した。

慌ただしかった第1回目は、不慣れな準備作業が本番直前まで続いたが、不安をよそに200人の満員。会場の旧室蘭駅舎には、ジャズ世代だけではなく若者たちも、世界で活躍す



準備を成功に導く、綿密な打ち合わせ

港の倉庫には1千200人の観客が集まった。ボーカルの力強い歌声と骨太でありながら繊細な演奏が会場に満ちあふれた。鮮やかな照明がサックスやトロンボーンに反射する。野外にはない一体感、臨場感が、港に集まった観客たちの魂を揺さぶった。ジャズクルーズは、まちの鼓動の発信場所として、室蘭港に「錨」をおろし

## 港とジャズの共演が 観客の魂を 揺さぶった

2回目は平成14年8月、中央ふ頭の倉庫で開催した。ジャズフェスティバルは、野外ステージが一般的。道内のジャズフェスティバルで全天候型はなかった。

倉庫の広さは約1千坪。約2千人を収容できる。「観客を呼ぶためには積極的なPRが必要」と、大岡副実行委員長は、ジャズクルーズのホームページを開設。コンサート情報を発信するとともに、新たな仲間を募った。



ミュージシャンと観客が一体となる中央ふ頭倉庫。今年も熱い出会いを待っている







副実行委員長 大岡 弘典 さん



実行委員長 山下 正純 さん



会長 石塚 和義 さん

よくスイングできる空間を作ることに全力を注ぐ。音響や照明、案内看板やTシャツの製作



案内看板はクルーたちの手作り

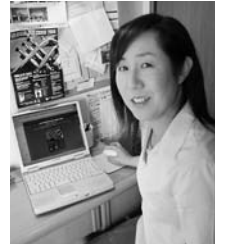
### 心地よくスイングできる空間づくりに全力を注ぐ

室蘭ジャズクルーズ実行委員会では、実行委員を「クルー（乗組員）」と呼ぶ。より近い仲間として互いを感じるためだ。クルーたちのステージづくりは、1年前から始まる。

良いステージづくりは、時間が必  
要だ。ミュージシャンと観客が心地よくス

た。室蘭の持ち味である港を生かしたイベントの誕生だ。  
4回目を迎える今年  
は、旅行会社が、札幌など道内各地の観客を募るツアーを企画している。「年代のターゲットも広く、天候に左右されない室蘭ジャズクルーズは、人を呼び込むユニークなイベント」と、セールスポイントをアピールする。

### 家族で楽しめるジャズクルーズ



坂元 智佳子 さん  
(八丁平)

毎年家族で行っています。ジャズクルーズは、出入り自由で、食べたり飲んだり、話しながらでも楽しめるので、子供連れでも安心して楽しめます。

ジャズを聴きながら、港に夕陽が沈むときの光景は最高。外国のまちのような美しさに酔ってしまいます。転勤してきた人に最初に勧めるジャズクルーズ。室蘭の良さを知ってもらうには、一番のイベントです。

### 細部まで気を配る会場設営



ことで、責任と信頼が生まれる。「だれが欠けてもステージは完成しない」と、山下実行委員長は言い切る。

クルーたちの忙しさは、本番が近づくにつれ増していく。担当によっては、本番のステージを一度も見ることもなく裏方に徹する人もいる。「マイクや機材、座席やごみ箱の位置まで入念にチェックして出来上がった会場で、ステージと一体になって盛

など、クルーの役割は細部にまで渡る。ジャズのソロ演奏のように得意分野を生かしながら、全体で調和のとれたチームづくりを行う



### 室蘭工業大学 ジャズ研究会



部長  
島 拓也 さん

今年で4回目の出演。クルーとしても参加しています。ジャズはアドリブ演奏などスタイルが多彩で、自由なところが魅力。

室蘭にジャズのイベントがあって、出演できることが何よりもうれしい。憧れのプロミュージシャンと同じステージに立つことは、貴重な経験。音楽を通して出会った、幅広い年代の人たちとのつながりを、大切にしたいですね。今年も、マイルス・デイビスの「セブン・ステップス・トゥー・ヘブン」も演奏します。僕らのステージをお楽しみに。



### 本場の ジャズを 学んだ

杉盛 隼 さん

「昨年、ジャズクルーズの事業として、姉妹都市のアメリカ・ノックスビルで「ジャズ研究」を行ってきました。本場アメリカのジャズを体感して、楽しむことが音楽の原点ということを再認識しました。自分のスタイルで演奏を楽しむことが大切。そんなことをジャズが語りかけているように思います。文化や環境の違いはあるけど、音楽に親しめるまちになってほしいですね。」



まちづくり部会  
部長 栗山 丈弘 さん



まちづくり部会  
源九 真紀 さん



コンサート部会ステージチーム  
リーダー 羽田 好輝 さん

アメリカの港町ニューヨークで、入り混じった人種と文化がジャズという新しい音楽を生んだ。まちの歴史や風土、人の融合で新しいものが、古いものの殻を破って芽を出す場合もある。大阪府高槻市で開催されている「高槻ジャズストリート」は2日間で10万人を動員する。作るのは1千人以上の自発的に活動するボランティアだ。

### まちの大切なものを融合させたエネルギーの可能性は無限

り上がる観客を見ると、やって良かったと、体中に熱いものがこみ上がってくる」と、ステージチームリーダーの羽田さん。疲労は観客の表情や歓声によって満足に変わる。今年は、20代から60代まで100人以上のボランティアがクルーとして汗を流す。「クルーのほか、趣旨に賛同してくれる地元企業の後援など、多くの人に支えられて、始めて熱いステージができる。今年は、元ビル・エバンストリオのエディ・ゴメスなど、世界的なプレーヤーが出演する。期待は裏切りません」と力を込める山下実行委員長。緊張と興奮で眠れない夜が本番直前まで続く。



ジャズに親しむまちを目指す  
まちづくり部会のミーティング

ジャズクルーズの作り手が求めるもの。それぞれの思いが一つになるとき、まちが奏でる新たなメロディーが、港まち室蘭から生まれるだろう。港は室蘭の歴史そのもの。つねに時代を反映してきた。2千人の観客が期待されるイベントに成長したジャズクルーズは、港の倉庫で芽吹いた。「ここからどんな芽が育っていくか、可能性は無限」と石塚会長は、将来を展望する。

ジャズクルーズの航海は始まったばかりだ。熱いステージはすぐそこにある。本物のジャズを体感して、この夏スイングしよう。

港とジャズという室蘭にある大切なものを融合させたジャズクルーズ。コンサートの成功に力を注いできた3年間で、組織も軌道にのり、今年4月には、実行委員会内に「まちづくり部会」を立ち上げた。若いクルーを中心に月1回のミーティングを行い、ジャズを知らない人たちも一緒に、ジャズを通して、たまちづくりについて意見を交わす。

「ジャズを通して、まちに熱い鼓動を広げたい」と同部長の栗山さんと源九さん。新たな波紋を生み出すと意欲的に取り組んでいる。

観客が求めるもの。出演者が求めるもの。

### ジャズクルーズへの声

「すばらしいアーティスト陣にびっくり。熱気が伝わってくるようです。きっと行きます。頑張ってます。」

「初めて行ったジャズクルーズは①アーティストが最高②スタッフが一生懸命③食べ物がおいしい④ホームページが充実⑤企画が素晴らしい。2004も楽しみ。」

(ホームページ掲示板より)

### クルー(スタッフ)募集中

当日や前日の準備などを行うスタッフを募集中。詳細は事務局(☎④9922、Eメール crew@jazzcruise.net)へ問い合わせを。

### 私たちも出演します

14人の部員で、ビッグバンドを編成してジャズに挑戦しています。

念願のジャズクルーズに出演することができて、本当にうれしいです。ジャズのスタンダードナンバーの「チュニジアの夜」や映画「アラジン」のテーマ曲などをレパートリーとして、輪西のワニ祭りなどで演奏して経験を積んでいます。

8月21日の本番では、練習の成果を発揮できるように頑張って「鶴中サウンド」を聴いてもらいたいです。



鶴ヶ崎中学校  
吹奏楽部

部長  
宮崎 洸 さん

